

住井するゑとその文学の里(三十一)

―牛久沼のほとり―

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功くりはら いさお

牛久村の異色の人物略伝

県会議員佐野喬一郎と橋場桂蔵

明治12年(1879年)の4月5

日に、前月執行の第一回茨城県会議員選挙で18の郡から選ばれた45人の議員が水戸の茨城師範学校(尋常小学校などの教員養成学校)に集まって、第一回の県会(県議会と呼ぶのは昭和22年(1947年)の新憲法施行後)が開かれた。村会、郡会、県会の各級議員は名誉職で、兼務することができ、各級の議員選挙の選挙権ならびに被選挙権を有する者は、男子で、各級ごとに定められていた多額納税者(納税多寡)に制限されていた。旧牛久宿本陣兼大庄屋佐野家戸主喬一郎は第一回県会議員選挙で当選した。

橋場桂蔵は、慶応3年(1867年、翌4年9月明治に改元)11月に牛久村(旧牛久宿)の農業を営む橋場家の長男として生まれる。村会、郡会、県会の各級議員を歴任、県会議員としては明治29年(1896年)から明治32年

(1899年)まで在職。一方で橋場は、明治31年(1898年)8月に内国通運(株)の牛久駅取引店を開設している。内国通運はそもそも明治4年(1871年)に駒通頭の前島密が、江戸時代に発達をみた通送(飛脚)制度に代わる官業郵便制度を定めて、郵便を創業したため仕事にあぶれた飛脚たちを国が保護することになってできた会社だった。最初は貨物運送専門会社陸運元会社と称していたが、明治8年(1875年)に内国通運に社名改称され、日本の陸運業を取り仕切る企業に発展、昭和12年(1937年)に日本通運(株)になった。

第11代・第13代村長塚本俊造

塚本俊造は明治8年(1875年)に牛久村(旧牛久宿)の入江家に生まれて、近所の塚本家の養子になった。牛久尋常小学校、水戸中学を経て慶応義塾大学で学び、外務省通訳部に入省するが、

若い時に牛久村(合併後の)に帰り、村会、郡会(議長歴任)、県会の各級議員に担ぎ出された。中央政界に人脈を持っていた塚本は、大正9年(1920年)から大正14年(1925年)まで、昭和12年(1937年)から昭和22年(1947年)まで、その間村長の職にあつて村勢発展にも尽力した。一方塚本は柔道4段、剣道2段の有段者で、武道を通して青年の指導育成にも尽くし、狩猟を好んだ。孫にあたる俊重氏も狩猟を好み、クレー射撃(競技)の名手で、昭和50年(1975年)のミュンヘン大会の日本選手団団長を務めた。俊重氏の話によれば「うちのじいさんと明治の元勳(公爵)岩倉具視の四男道俱は友人で、道俱はよく遊びに来た」そうだった。公爵岩倉家に生まれた道俱は15歳で男爵の爵位を授爵し、東京帝国大学(現東京大学)を修了して、30歳になった明治44年(1911年)から昭和21年(1946年)まで連続貴族院(華族議員)議員を務めた。

第16代村長吉田虎次郎

―牛久町岡田村合併に尽力―
吉田は牛久村大字牛久(旧牛久宿)に生まれ、昭和27年(1952

年)3月に村長に就任した(昭和29年(1954年)1月から3月までは町長)。吉田は昭和28年(1953年)9月公布の町村合併促進法にのっとり、岡田村長川村衛と図り、昭和29年(1954年)1月11日に牛久町岡田村合併協議会を組織し、両町村の合併による同年4月1日の新制牛久町誕生に成功した。



→牛久郵便局(橋場家所蔵写真)の文字は、小川芋銭が書き、それを基に刻字された。牛久郵便局は明治5年(1872年)5月1日に開設され、初代局長は入江良平、第2代局長が飯島元蔵で、大正12年(1923年)7月に橋場桂蔵の長男慎一が第3代局長に就任すると同時に橋場宅が牛久郵便局局舎になった。

※昭和51年牛久町教育委員会発行「史跡散策」、同56年牛久町教育委員会発行「牛久町史料編(一)」、平成18年牛久市教育委員会改訂版発行「わたしたちの牛久」には、牛久郵便局開設が明治8年となっているので、これを明治5年5月1日開設と訂正する。